



行田ライオンズに想う

元ガバナー 川島 清
行田中央総合病院 院長

今日、今も地球上の各地で血腥い殺戮が行われており、又、飢餓と疾病のため幼い子供を主として多数の尊い生命が失われております。貴重な地球環境の破壊も進んでおります。このような事態に特に先進国を中心に危機感を持ち、その打開に乗り出しております。しかし、公的援助は完璧とは言い難くその隙間を埋める事が必要で、ここでNGO、ボランティア団体の貴重な支援が必須であり現に実際数多くの方が命がけで活躍しているところです。

私達ライオンズクラブは世界 186ヶ国に 138万人の会員を擁する世界最大の奉仕団体であります。ウィ・サーブ（我々は奉仕する）をモットーに国際社会にも地域社会に対しても平和と自由の理想の実現を目指して日々精進し奉仕活動を展開しております。

戦後間もなくフィリピン、マニラにより日本に初めて東京クラブが誕生して以来 50年が経過いたしました日本全国では 14万人の会員が日々活躍しておるところです。

一方、行田ライオンズクラブは来年で創立 30年を迎え 60名の会員を常に維持し活動しておりますがその存在は地域に必ずしも認知されていない憾みがあり残念に思っております。

ここで過去 30年のクラブの歩みと実績を簡略に記してみたいと存じます。

- 1973年 1月 10日大宮クラブの指導により県内 23番目のクラブとして誕生。
1976年東京、埼玉混成地区より 330-C地区として埼玉が独立。

- 結成以来 YEP（国際青少年交換事業）を毎年継続し青少年を世界中に派遣し世界より来日生を迎え、延人数は合計 70名に及んでいます。
- 1976年桑名ライオンズクラブと、友好提携クラブとして調印し、以来毎年交流し友好の実を上げております。
- 1980年加須ライオンズクラブを誕生させる。
- 1991年行田キャビネットを構成しガバナー川島、幹事新井執、会計故海谷にて 1年間埼玉のライオンズの 4000名の頂点に立つ。この際記念事業として少年少女像を市総合運動公園に寄贈。
- 明大マンドリン行田演奏会をロータリークラブと共催し市内及び南河原中学生を招待し 20年に及んでいます。
- ライオンズ杯 市内中学校サッカー大会を継続開催。
- クラブ主催のもと年 2回の市民献血会継続実施。
- 献眼（アイバンク協会）、骨髄移植推進財団に対し市民チャリティ事業を主催し継続的に基金寄付。

【30年間の主なる有形奉仕事業】

1. あづまや「獅子吼庵」を水城公園に建設。
2. あづまや「古墳亭」をさきたま風土記の丘に建設。
3. 「ライオンズの森」を水城公園に造成
4. 「忍城史跡碑」を市内各所に 50基造成
5. 「武人埴輪」を交通安全の願いをこめ市内 4基建立。
6. 交通安全塔を市内 3基建立寄贈。
7. ミニカーを警察署に 1輛寄贈。
8. 献血広報車を熊谷日赤血液センターに 1輛寄贈。
9. 在宅介護使用車を緑苑苑、まきば園に各 1輛寄贈。
10. 交通安全旗を毎年継続し小学生のため寄贈。

私達行田ライオンズクラブの会員は上記の如く「ウィ・サーブ」の心でささやかではありますが頑張っております。

これからも市民各位のご認識、ご支援をひとえにお願い致す次第です。

ウィ・サーブ
—我々は奉仕する—



91年記念事業
少年少女像総合公園内に建立



99年より古代蓮公園内に
桜並木植樹開始

あづまや「古墳亭」
さきたま公園内に建立

